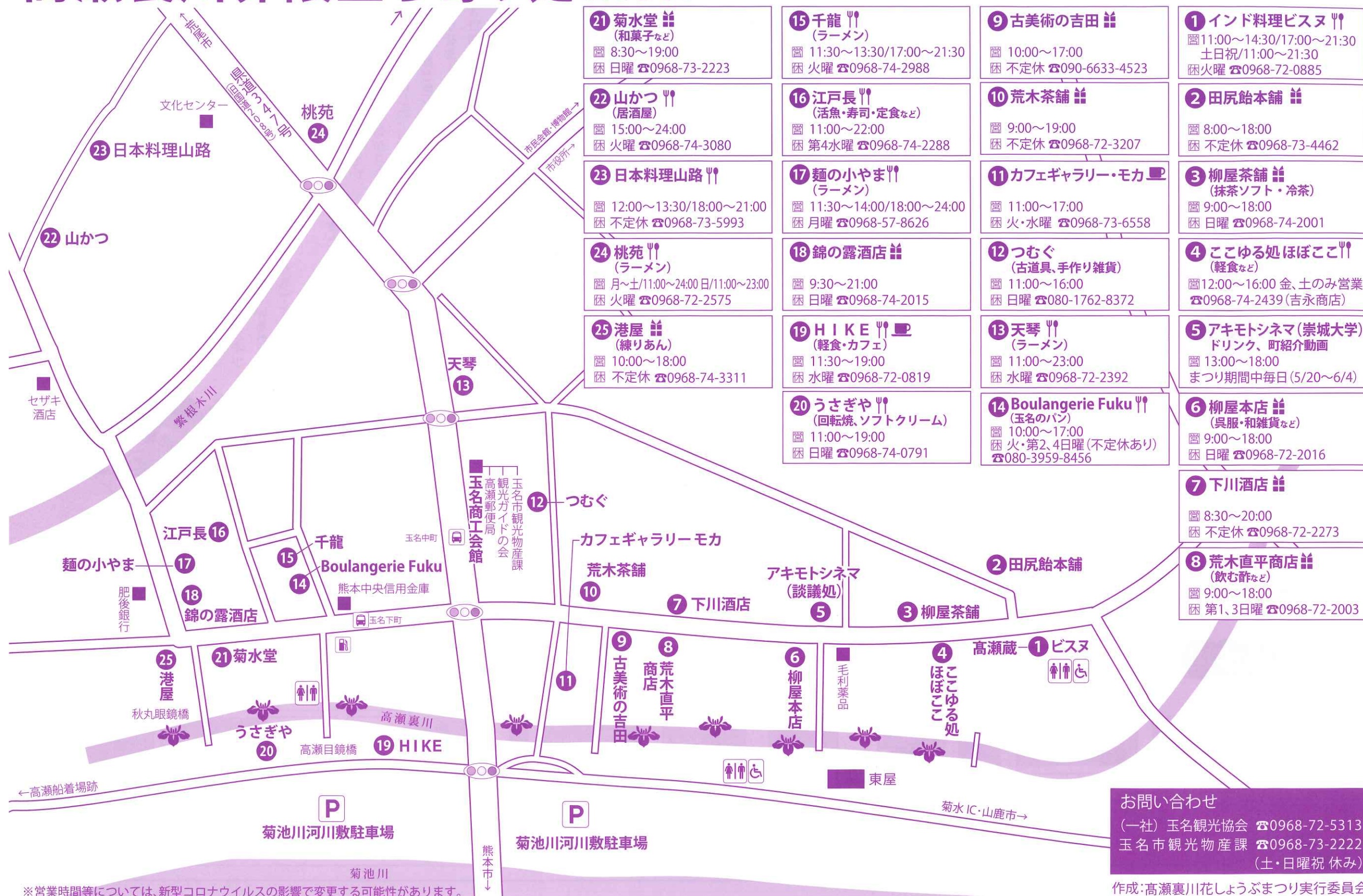


高瀬裏川界限立ち寄り処MAP

マップアイコン 食事 喫茶 土産



※営業時間等については、新型コロナウイルスの影響で変更する可能性があります。

花しょうぶと高瀬裏川

花しょうぶ

初夏の裏川を彩り、訪れる人々に安らぎを与えてくれるハナショウブ。

ハナショウブは、アヤメ科アヤメ属の宿根草で、2月下旬ごろから芽が伸び始め、気温が高くなるにつれて草丈が伸びていきます。開花は5月下旬から6月上旬で、紫をはじめ、白、青、ピンク、黄色など色とりどりの花を咲かせます。一つの花の寿命は3日間ほどですが、一つの茎に3輪ほどが咲きます。

ハナショウブは、日本にあるアヤメ属(7種類)・カキツバタ、



▲往年の高瀬を物語る高瀬目鏡橋

アヤメ、シャガ、シメシャガ、エヒメアヤメ、ヒオウギアヤメ、ハナショウブ)の中でも、アヤメとカキツバタと良く似ているため、間違われがちです(左表参照)。

また、見た目がショウブとよく似ていますが、全く別のもので、ショウブは、サトイモ科に属し、端午の節句に風呂に入れてしょうぶ湯とする習慣があるなど、独特の香り(匂い)を楽しみますが、ハナショウブには、そのような香りはありません。

高瀬裏川の整備

昭和50年代初め、裏川は雑草が生い茂り、生活廃水が流れ込むドブ川と化していました。ここを暗渠化して駐車場とする計画が持ち上がりましたが、市民団体「裏川を美しくする会」と玉名市は、高瀬の歴史遺産を後世に伝え市民が憩える親水空間の創出を計画。昭和55年度、国土庁が策定した「伝統的文化都市環



境保存整備地区等(水際緑化都市モデル地区)整備事業計画」のモデル都市に玉名市が認定されると、昭和56年、歴史的遺産の保全活用・学習を目的として、裏川中流部分250メートルの区間で河道や散策道を整備し、花しょうぶの植栽を行いました。さらに、昭和60年度は上流部分150メートルを整備し、平成3年度から行われた県道の改良事業に伴い、上流の秋丸眼鏡橋の下流への移築と、あわせて下流部分の整備も行われました。また、上流部分には河川敷広場や散策路、トイレの整備が進められ、平成12年6月、モデル都市指定から20年かけて行われた裏川全延長600メートルの改修と整備が完成し、市民の憩いの場、観光スポットとして親しまれています。

魅力いっぱい

高瀬商店街

裏川の西側に並行している「高瀬商店街」。この商店街には、今も江戸や明治期の商家が立ち並んでおり、古き町並みを維持しているほか、商店の前面(ファサード)を改修し、昔の姿に戻す「修景事業」も行っています。こうした活動が認められ、昨年、熊本アートポリス事業地域景観賞を受賞。さらに、店主が商売の歴史や町の姿を紹介しながら歩いて巡る「うろんころん(玉名地域の方言で「ふらりと歩く」という意味)高瀬」を開始。高瀬地区は、ふたたび注目される地区となっています。

区別	ハナショウブ	アヤメ	カキツバタ
開花時期	5月下旬 ～6月上旬	5月上旬 ～5月中旬	5月中旬 ～5月下旬
葉	幅は中くらい 主脈が太い	幅は狭く、濃緑色 主脈は不明瞭	幅は広く、黄色味を 帯び、主脈細小
色	紫、紅紫、ピンク、 白、絞り、砂子、他	紫、まれに白	青紫、紫白、絞り
花容	大輪咲(野生種は小) 約10cm～30cm 掌より大きい	小輪咲(弁元にあみ め状の筋あり) 約10cm、花弁が丸い	中輪咲 約10cm 花弁がやや細い
品種	約7,000種	約200～300種	約100種
葉の断面	 幅が中くらい 脈が鮮明	 幅が細い 脈が不鮮明	 幅が太い 脈が不鮮明
花弁の違い	 弁元に黄色い目	 弁元に網目模様	 弁元に白い目

裏川概略図

